

# 地球温暖化防止のための地域協働に関する研究 (1) ～旭台自治会のまちづくりを事例として～

## A study on the regional cooperation for solving the global warming problem (1) ～A case of Asahidai community association～

岡村 聖・辰巳欽哉\*

OKAMURA Kiyoshi, TATSUMI Kinya\*

\*尾張旭市地球温暖化対策地域協議会, Owariasahi-city Global warming Countermeasures Association, Owariasahi 488-0076, Japan

**Abstract:** In this paper, the town development on a regional scale of Asahidai community association is reviewed. Then the direction of the authors' study is shown.

**Keywords:** Global warming solution, Community association, Regional cooperation

### 1. はじめに

1997年12月地球温暖化防止京都会議(COP3)で、温室効果ガスの具体的削減数値目標が合意され、2005年2月に発効された。目標達成期間2008～2012年において、国では「チーム・マイナス6%」を推進している。温室効果ガス削減のための活動内容は多岐に渡っており、エコライフメニューの提示、省エネ設備購入補助、各種講座の推進など夫々の活動が推進されている。また、参加型のエコマネーや環境家計簿の普及などCO<sub>2</sub>削減活動が進められている。しかしながら、温室効果ガス排出について、現状生産業は減少しているが、家庭部門は、むしろ増加傾向である。

本研究の目的は、家庭部門における温室効果ガスの排出削減策を、尾張旭市旭台自治会(以下、旭台)をモデルに住民の立場から改善し、有効なものにしていくための提案を行うことにある。そのファーストステップとして、モデルとなる尾張旭市旭台自治会がすすめられているまちづくりの特徴についてまとめた上で、今後の研究の方向性を示す。

### 2. 旭台の概要

旭台は、尾張旭市の北東部にあり、森林公園に隣接した、緑豊かな、住環境地区である(図1)。旭台は「1・2・3丁目」の3つの町で構成され、平成20年10月現在で、642戸の世帯がある。昭和43年9月に区画整理が完成し、昨年40周年を向かえたこともあり、入居世帯の高齢化が進んでいる。現在、70才以上の老人の住む世帯は1丁目が25%、2丁目が35%、3丁目が37%であり、80才を超える老人は100人に上る。

名古屋通勤圏内の瀬戸方面からのバイパス道路が周辺を通過しており、犯罪広域化に対する懸念があることから、防犯対策に対して意識が高い地域である。また、尾張旭市の「ウォーキング・お花見コー

ス」が森林公園を經由して旭台地区を通過していることもあり、緑と環境を守る意識も高い地域である。



図1 尾張旭市旭台地区

### 3. 旭台地区のまちづくり

#### 3.1. 方針

旭台のまちづくりの概要を図2に示す。旭台は、まちづくりの具体的な活動項目として、ふれあい、防犯、防災、環境を設定している。そして、最も重視していることは、4つの活動をPDCAサイクルによって確実にまわす継続可能な体制をとっていることである。まちづくり活動には、各世代の自治会員ができることに参加する。役員は提案や要望を吸い上げることに注力する。そして、対策を検討した結果を情報公開により全自治会員に報告する。この報告は、次の活動への計画発表を兼ねることになる。

すなわち、活動については全自治会員で、最も重要な継続に関する部分は自治会役員で実施することに特徴がある。

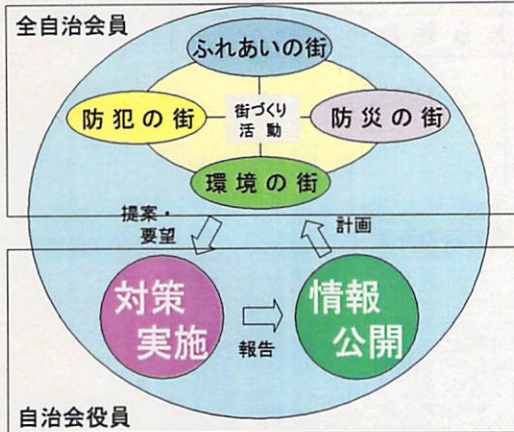


図2 旭台のまちづくりの概要図



図3 まちづくり活動の守備範囲



図4 尾張旭市健康都市推進とリンクした旭台のまちづくり

まちづくり活動は、“守備範囲”を設定して他と協働することを方針としている(図3)。高齢者から子どもまで、各世代が「楽しく・ふれあう」安心まちづくりの為に、防災活動、防犯活動、環境活動を行うわけであるが、その活動規模については範囲を定めている。防災活動は「自治会単位」で行う。隣のおばあちゃんを心配出来ること、に配慮する。防犯活動は「校区単位」で行う。子どもは小学校区で活動することから、自治会の範囲を超えた校区内で他の自治会と連携する。環境活動は、「市の単位」で行う。まちづくりにおいて、広義の「環境」は全ての活動の背景にあたるもので、市全体で考えた場合の整合性が不可避である。本研究では、特に「環境」のまちづくり活動に注目する。

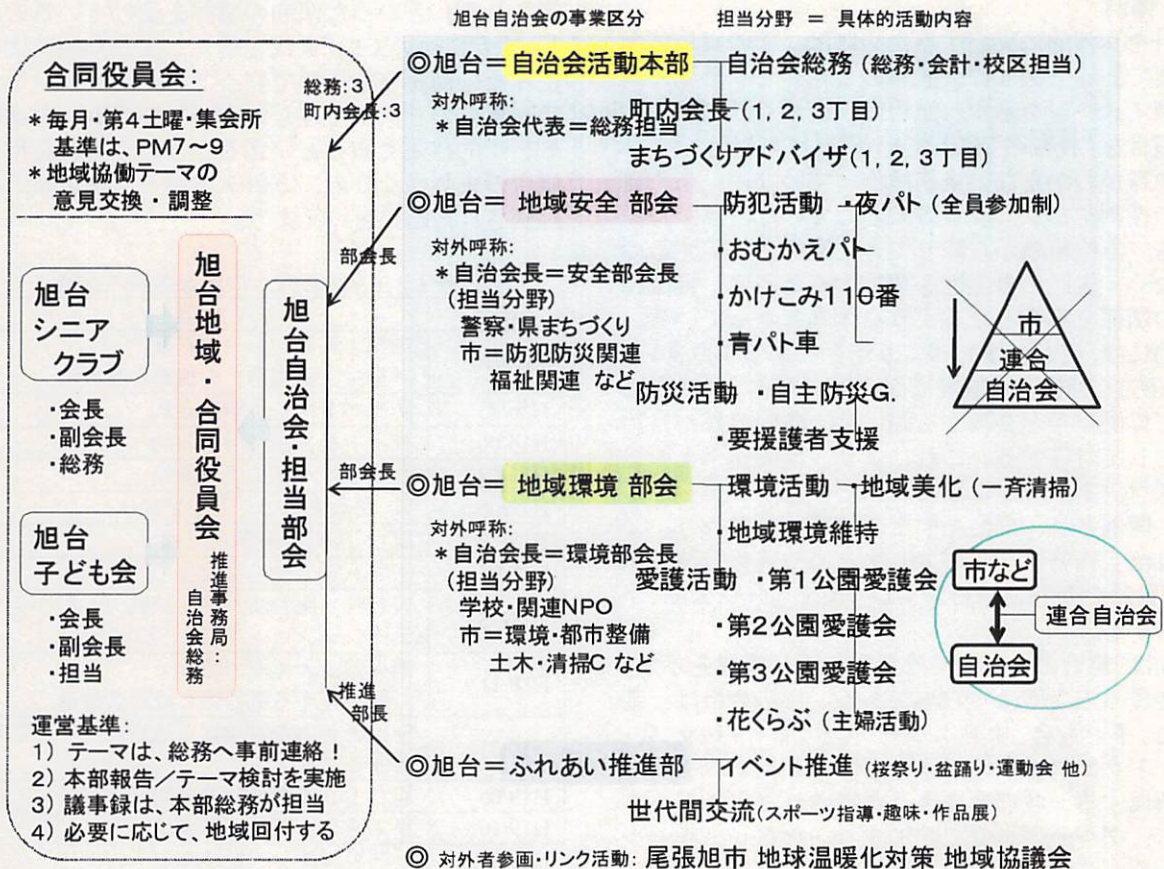


図5 旭台のまちづくり活動の実施体制イメージ

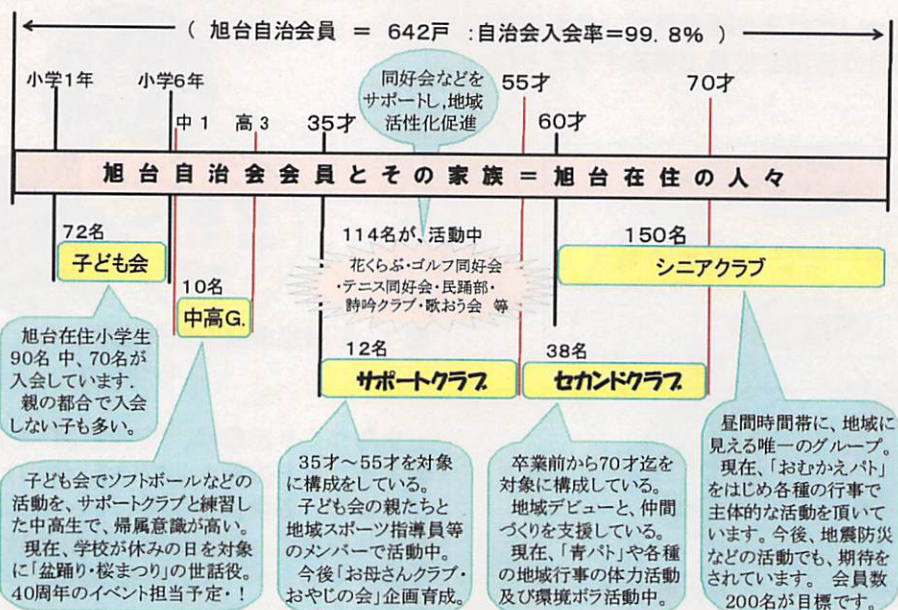


図6 旭台のまちづくり活動の人材構成

環境については市全体と協働することが旭台の方針であるが、一方、尾張旭市は「健康都市」を推進している。両者の取り組みは、図4のように整合する。旭台の各活動が機能すれば旭台地区の住民は健康になり、住民が健康であれば、各活動は充実するという、相互に補完しあう関係になっている。

### 3.2. 体制

方針を具体的に実施するためには、その実施体制が重要である。図5に、旭台のまちづくり活動の実施体制イメージを示す。旭台は、街づくりの具体的な活動項目を“役割名”にしている。「〇〇長」など、活動内容がわからない業務は作っていない。市や自治会の役割をピラミッド方式としていない点が特徴である。上位組織から降りてきた案件に対応するのではなく、住民の自主性を尊重するために、協働相手との関係を平行となるような体制をとっている。具体的には、旭台のまちづくり活動であるふれあい、安全（防犯と防災）、環境に部会長を置き、各活動において協働相手と交渉する際には、各部会長が自治会長として対応する。これにより、協働相手との迅速な意思決定が可能になる。また、合同役員会が定期的に開催され、部会長同士の情報共有を行う。また、自治会総務は全体の取りまとめや情報公開（年4回の自治会新聞の発行およびWEBページ公開<sup>1)</sup>）を担当する。

図6は、旭台のまちづくり活動の人材構成を示す。自治会員の入会率は99.8%である。自治会員は、基本的に、子ども会、中高グループ、サポートクラブ、セカンドクラブ、シニアクラブのいずれかのグループに所属する。各部会により企画されたまちづくり活動に、グループ単位で参加する。ただし、ルールは決めるが強制はしない。従って、各世代の自治会員（グループ）ができることに参加する体制となる。

### 3.3. 活動実績

表1に主な生活安全の向上活動の実績を、表2に主な環境メンテナンス活動の実績をそれぞれ示す。これらの取り組みは、愛知県建設部建築担当局建築指導課街づくりグループより、人にやさしい街づくり賞として表彰された。その他の受賞団体の多くが、「人にやさしい建物を作った、これからの活用が期待される」といった傾向の講評を受けているのに対し、旭台については「世代を超えた住民参加により、住みたい街を自分たちで作っていくというコミュニティ単位の「人にやさしい街づくり活動」を進めるモデル的存在であるといえる」という講評を得た。旭台のまちづくりの、方針・体制・活動実績が高く評価された結果といえよう。

表1 主な生活安全の向上活動の実績

日付	内容
H15/10	市長ふれあいトーク開催 「自主防犯推進」の提案を受ける
H16/03	防犯パトロール隊発会式
H16/06	夜パトなど住民活動開始
H16/08	盆踊りでパネル展示開始
H17/06	県 安全まちづくり①受託
H17/12	旭台 防犯事例発表実施
H18/03	子ども安全マップ大会
H18/05	NHK「旭台防パト」放映（おむかえステーション）
H18/11	消火器、火報器の斡旋 「顔の見える電器屋」設定の推進
H19/01	守山署管内を対象に「旭台防犯パト活動公開」プレゼン
H19/05	旭台19年度資料の公開
H19/10	東栄連自、防犯パト発足
H18~20	「防災訓練」の継続実施

表2 主な環境メンテナンス活動の実績

日付	内容
H15/12	桜保存検討委員会活動 「旭台の桜」状況など確認・検討
H16 通期	境川沿散歩道の整備 ① 全コースフェンス設置 ② 散歩道を明示の白線表示 ③ スポットガーデンの開設 ④ 桜まつりの実施 など
H17/04	尾張旭市旭台地球温暖化対策地域協議会 環境省へ登録 <sup>1)</sup>
H17~18	環境省事業の受託 (小売家電店省エネ推進活性化)
H17 夏~ 秋	第2公園改修WS ① WS(ワークショップ)推進 ② 公園自主剪定の推進
H19/12	名産大:環境フォーラム 「旭台の環境・高齢者活動」発表し、「コ ミセン活動」などを提案(辰巳, 2008)
H19 冬~	第3公園改修WS 「第2、3公園の改修」が決定
H21/03	第2公園改修完了、公園開き

平成20年度からは、「ふれあい・コミュニティ活動」を強化推進する方針を打ち出している。自治会の高齢者からのアンケート結果から、

- A) 地域内に、気軽に出かける所が欲しい
- B) 近所や地域の人との、交流があれば
- C) 家や家具が傷んでも相談する所がない
- D) 身体が弱ってきて、外に出にくくなった

という要望が高いことがわかった。そこで、自治会とシニアクラブの協働事業・活動強化を進めるために、自治会役員の複数年活動・専門部会化を更に推進することとした。更に、コミュニティーセンター構想のファーストステップとして、改修された第2公園内にある集会所(図7)の活用について、①趣味・作品の常設展示、②気軽な利用の促進、③役員・業者の生活相談、④健康教室開催、などを行っている。

更に、集会所に常設環境コーナーを設けて、古紙やペットボトルの分別回収およびその処理に関する説明パネルの設置、雨水利用タンクの設置、CO<sub>2</sub>濃度測定とCO<sub>2</sub>濃度常時測定ネットワークシステム<sup>2)</sup>への参加による測定データのWEB公開およびそれらの説明パネルの設置、等も行っている。

今後、家庭部門における大幅なCO<sub>2</sub>排出削減が急務となる。エコライフメニューの提示、省エネ設備購入補助、各種講座を個別に推進しても、その効力は限定的であることは現在の状況を見る限り明らかである。住民の生活に根ざした地球温暖化対策は、コミュニティにおけるふれあい・安全・環境の活動と相互に密接に関連付けられたものであると考えられる。例えば、昼間時間帯に在宅の可能性が高い高齢者が地域内を散歩したり、井戸端会議したりしていただければ、小学生の下校時の安全性が高まるば

かりでなく、当該時間帯にテレビを消すことによる省エネ効果が見込める。このことは、環境省の受託事業の際の省エネナビによる電力使用量の調査からも示された。

次年度以降、特に、集会所の常設環境コーナーを活かした温室効果ガスの排出削減策の具体的な検討を行う予定である。

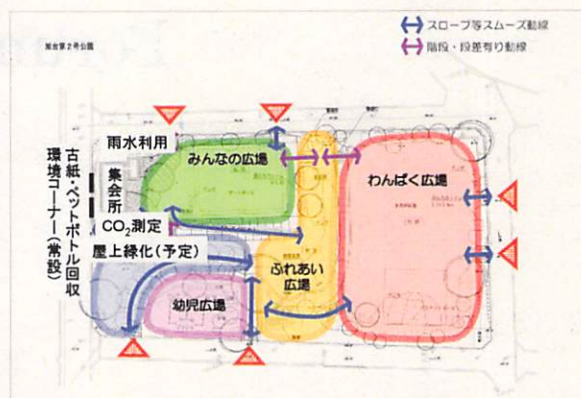


図7 旭台第2号公園

#### 4. おわりに

家庭部門における温室効果ガスの排出削減策を、旭台をモデルに住民の立場から改善し、有効なものにするための提案のファーストステップとして、モデルとなる尾張旭市旭台自治会がすすめるまちづくりの特徴についてまとめ、今後の研究の方向性を示した。次報では、具体的な取組み事例を紹介したい。

#### 補注

- 1) 「尾張旭市旭台地球温暖化対策地域協議会」  
<<http://www.gc-net.jp/eecoasapi/index.html>>  
(2009/3/1 アクセス)
- 2) 「CO<sub>2</sub>濃度常時測定ネットワークシステム」  
<<http://211.125.168.199/CO2/top.asp>>  
(2009/3/1 アクセス)

CO<sub>2</sub>濃度の常時測定を、中学校3校、小学校6校、大学1校、企業2社3箇所、自治会1箇所(旭台)、の計14箇所で行っている。CO<sub>2</sub>濃度のリアルタイム変化、日変化、月変化、年変化をWEB公開することで、蓄積・変化する環境情報を、一般のWEB閲覧者に公開している。公開からの閲覧数は10000アクセスを超えている。

#### 参考文献

- 愛知県 建設部建築担当 建築指導課街づくりグループ(2009):『第14回人にやさしい街づくり賞の記録』22pp.
- 辰巳 欽哉(2008)「エコ環境を地域から!自治会と地球温暖化対策」『環境経営研究所年報第7号』pp.93-64.